

一般社団法人 日本応用地質学会

令和5年度・2023年度

## 第1回国際委員会・IAEG JAPAN 運営委員会 議事録

日 時 : 2023年5月19日(金) 15:00~17:30

場 所 : 国際航業株式会社 本社会議室、Zoom を用いた Web 会議(併用)

出席者 : 長谷川委員長、菊地副委員長、加地委員、野々村委員、水野委員、安田委員、山下委員、山田幹事  
委任状提出: 越谷委員、昆委員、徳楠委員、百嶋委員、百瀬委員

陪席: 千木良 IAEG Japan NG 代表、茶石顧問

## 議事:

## 1. 前回議事録(案)の確認

- ・前回(2023年3月)に開催した委員会の議事録(案)を了承した。
- ・国際会議の情報(IAEG XIV Congress 2023、14<sup>th</sup> ARC:ともにアブスト締切が5月末)について、急ぎ HP・NL 等で改めて周知する。なお、学会員への周知方法(発信頻度の増加、NL 配信記事の見直し(「IAEG 国際情報」を強調)、SNS の活用など)については、継続的に見直しを行っていく。

## 2. 理事会報告

- ・令和5年度第1回理事会の内容について報告がなされた。

## 3. IAEG JAPAN 運営委員会活動について

## (1) IAEG 事務連絡

## 1) IAEG XIV Congress 2023 関連

- ・開催概要の記載事項(アブストラクトの提出期限が5月末まで延期、COVID-19 対応など)について、学会 HP・NL 等で改めて周知する。
- ・特別セッション「日本の防災と環境保全の最新研究成果」に関連して、情報提供者から改めて情報収集を行う。
- ・理事の中から、今後の海外調査団派遣について検討してほしいとの要請があった。少なくとも半年まで前には学会内で開催通知を行う必要があるため、次の IAEG 関連の国際会議である 15<sup>th</sup> ARC (2024年2月、マレーシア)での企画を検討する。
- ・Council Meeting は今後、コンGRESSや各地域会議と切り離してオンライン開催となる可能性が高い。その場合を想定して、アジア地区副会長へ立候補する際の活動手段などについて、再考しておく必要がある。

2) IAEG アジア地域会議(アジアシンポジウム ARC)について

- ・14<sup>th</sup> ARC の事務局担当者から基調講演の依頼が入った。今回の対応案について事務局担当者へその旨をメールにて報告しておく。その際に合わせて、開催期間中に予定されている「アジア地域ミーティング」の概要も確認する。なお、事務局担当者とは今後も連絡を取り合える関係を築いておく。
- ・JSEG 会長が現地参加となる場合は、「アジア地域ミーティング」にも参加できるよう事前に調整する。
- ・2024年の IAEG 総会は、14<sup>th</sup> ARC ではなくヨーロッパ(クロアチア)で開催される可能性が高いため、その場合は Japan NG からは Web 参加とする。
- ・14<sup>th</sup> ARC のタイミングで、16<sup>th</sup> ARC (2027年)の開催を希望する場合は、意思表示をしておく必要がある。まずは JSEG 内で方針を協議した上で、今年中に Seo・Ranjan の両 VP と話をする機会を設け、16<sup>th</sup> 以降の方

向性を共有しておく必要がある。(中国やインドの開催意思を確認するか?など)

### 3) 他 National Group との交流について

- ・特に関係の深い3か国(韓国、ネパール、台湾)について、例えば「LP データ(Lidar データ)などの最新技術の活用と応用地質的視点による防災・減災」をテーマとした交流などを企画してみる。また、各国の国内会議においてこのようなテーマで特別セッションを設けることや、各国が抱える技術的課題などを情報共有する機会を設けることなどについて、アジア地区両 VP に意見を伺う機会を設けてみる。
- ・例えば、まずは国際委員会内で開催する「海外アラカルト」を拡張開催とし、アジア地区両 VP を招待することを前提に、開催方法やテーマ等のアイデアを次回委員会で提示する。
- ・上記取り組みについては、最終的には令和 6 年度研究発表会における特別セッションへ繋がるように留意して、活動を行っていく。

### 4) IAEG Newsletter 関連

- ・2023 No.1 の発行内容について説明がなされた。
- ・2023 No.2 の投稿へ向けて、引き続き素材(シンポジウム報告、NG 代表交代など)の収集準備を進める。
- ・KSEG からの報告の中で、日本人技術者が秋季大会で基調講演を行ったとの記事があった。KSEG 会長に対して、今後同様の依頼を行う際には Japan NG にも情報共有してもらおうよう要請しておく。

### 5) IAEG 報告事項

- ・2023 年度の会員数報告の内容について説明がなされた。
- ・IAEG の年会費改定については、本年末までに理事会で承認を得られるように調整を進める。

## (2) その他

### 1) 学会誌 Bulletin 紹介

- ・学会誌 10 月号での記事掲載に向けて、担当順を前倒してご対応頂く。

### 2) ダイバーシティ推進特別委員会

- ・令和 5 年度第 1 回委員会の議事録について説明がなされた。
- ・事業計画に追加した「国際的なダイバーシティ推進を実現するための情報収集と情報発信」については、国際委員会と企画を相談しながら進めて行くことを希望している。(例:キャリアデザインセミナー\_海外で活躍するまでの経歴紹介、海外アラカルト\_ベテランから若手への経験継承、YEG 情報の共有、など)

### 3) JSEG 総会資料

- ・令和 5 年度の事業計画案について説明がなされた。

### 4) 若手技術者を対象とした海外技術関連情報・知見の発信について(研究発表会\_特別セッション開催)

- ・特別セッションでの発表案について説明がなされた。
- ・招待講演者への旅費交通費の支給が可能かについて、次回理事会で確認を行う。
- ・KSEG 会長へ、招待講演を引き受けて頂けるかを確認する。

### 5) 大学機関等からの国際委員会への参加について

- ・大学や研究機関の若手関係者 ⇒国際委員会、YEG にも加わってもらう方向で要請する。

### 6) 海外シンポジウム

- ・現在、学会 HP に掲載中の情報について説明がなされた。適宜内容を最新情報に更新した上で、JSEG\_HP のトップページ及び学会 NL での周知を手配する。

## 4. ホームページ関係

### (1) JSEG 英語版 HP

- ・適宜、掲示情報の更新を行う。

- ・直近での新たな試みとして、国内災害情報の速報的な情報提供(SNS)や写真集コーナー新設(HP)(災害調査団&海外調査団(ネパールと韓国はある?))などの対応準備を進める。

(2)JSEG 日本語版 HP

- ・適宜、掲示情報の更新を行う。

5. 海外情報の共有

- ・「海外アラカルト」講演(海外事業の紹介、留学生や海外技術者から見た国内事情など)について、今後も継続するために、まずは各委員にて5月末までに候補者を選定する。
- ・「海外アラカルト」講演は、「oVice」の試行も含めたダイバーシティ系との共催も検討する。

6. その他

- ・次回委員会(令和5年度\_第2回)は、令和5年7月に開催する方向で調整する。

以 上